

3. 子育て、多世代交流

「基本目標」

みんなでつくる、子育てしやすい環境と多世代交流

「重点戦略」

子育て世代の声に耳を傾け、子どもを健やかに育てる環境を整備するとともに、多世代が交流することを通じて、子育てしやすい環境を整備していきます。

- (1) 出会いと交流の場の拡大
- (2) 子育て世代への支援拡大
- (3) 木祖村らしい教育、子育て環境の整備
- (4) 多世代交流による子育て支援

【重点戦略業績評価指標(KPI)】

主な施策	事業内容	基準値 R01	目標数値 R06	R3年度(まで)の具体的な取り組み内容	実績値	自己評価	検証結果	担当課
(1) 出会いと交流の場の拡大								
婚活サポーター制度の推進	婚活サポーターの登録促進		登録者数 30人	婚活サポーターの登録者は1人にとどまっている	1人	C	時代の変化もあり難しい取組となっている。	総務課
源気出会いサポートセンターの継続	告知方法を工夫し、サポートセンターへの登録者数増大	現状 14人	登録者数 20人	令和2年度に周知するための結婚支援推進員を3名委嘱し、登録者を増やすよう図っている	14人	C	交流の場への参加状況は？ 結婚への意欲等のアンケート調査の実施を。 木祖村に来て頂いた方々の様々のご意見や諸々のお話を聞けたらよいのは。次のステップにつながるのでは。	総務課
結婚をされた方の意見の集約	出会いのきっかけや嫁いできた理由などの把握		年間 1回 定期開催	実施なし	0	D	これにより効果が期待できるか疑問	総務課
	意見交換会、健診時保育園などで聞き取る			実施なし	0	D		総務課
一人ひとりが生きがいをもって暮らせる基盤づくり(結婚支援)	源気出会いサポートセンターを窓口として、民間結婚相談会社への委託を通じ、相談業務や紹介業務、結婚イベントを開催し、積極的に			㈱ベストパートナーに委託し、源気出会いサポートセンターを設置し、結婚支援を実施。	—	B	参加率の状況の報告を。 村にきていただける女性がいるのか	総務課
	補助金の活用により、村内で新たに生活を始める夫婦や、村内で婚活イベントを企画する団体を支援します。			新婚世帯への直接的な補助や、婚活イベントに対する補助を実施	—	C	施策の内容や方向性は良いが十分な効果が得られていないため、内容の見直しが必要であると感じる。 この施策の達成見込みは難しいと感じることも多い。	総務課
	郡内町村と連携し、広域的な結婚支援について検討を行います。			広域的な婚活イベントを開催。	—	C	広域的な取り組みで成果を上げることができるとは思わない	総務課

(2) 子育て世代への支援拡大								
ファミリーサポートセンターの立ち上げと活動の拡大	事業の紹介、告知の推進		全村民	未実施	未実施	D	センターの立ち上げは良いが認知度がない。施策や内容は方向性は良いが、目標等の見直しが必要	教育委員会
	ファミリーサポートへの登録促進		登録者数 10人	未実施	未実施	D		教育委員会
	制度の理解を深め、利用者数増大		利用者数 20人	未実施	未実施	D		教育委員会
商品券制度による経済的支援	子育て支援となる商品券制度の研究		制度の研究 R2年度	未実施	未実施	D	生活困窮者とのバランスをどう図っていくか課題である。	住民福祉課 教育委員会
	商品券の発行と利用促進		制度の開始 R4年度	未実施	未実施	D	地元の商店しか商品券が使用できないため利便性が欠ける	住民福祉課 教育委員会
一人ひとりが生きがいをもって暮らせる基盤づくり(ひとり親家庭支援)	保健福祉事務所と連携をとりながら、ひとり親家庭の就業に向けた情報及び支援体制の周知などに努めます。			保健福祉事務所と連携し、対象家庭への情報提供に努めている。	—	A	進学している方就職している方でそれぞれ支援はできているのか、確認を。 子がひとり取り残されて留守番している状況ではないか確認を。	住民福祉課 教育委員会
(3) 木祖村らしい教育、子育て環境の整備								
現在実施している事業の継続(「総合的な学習の時間」等)地域の教材と関わる学習	地域の教材と関わる学習を通じて地域の良さを感じる生徒が増えてきていると答える割合	30%	35%	コミュニティスクールの開催(陶芸教室、地域探訪 等)	287人	B	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいくべきと感じる。	教育委員会

一人ひとりが生きがいをもって暮らせる基盤づくり(学校教育)	村の自然を大切にする心と、自然と調和した環境づくりへの関心が高まるよう、児童・生徒への取り組みを進めます。			コミュニティースクールでの地域探検に実施	—	B	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいけばと感じる。	教育委員会
	他県の学校との交流を進め、木祖村以外での様々な経験や情報が得られる機会をつくります。			相野山小学校、木曾岬中学校との交流事業の継続	—	B	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいけばと感じる。	教育委員会
	小・中学校において基礎学力や体力を身につけることができるよう学習環境の整備を進めるとともに、学校教育目標の「やさし木、かしこ木、たくまし木で伸びる児童」、「生命を大切にし、自ら伸びようとする生徒」がかなうように育つことができる教育環境を整えます。			ICT教育の環境整備促進(校内LAN設置、各児童生徒へのタブレット端末の配置)	—	B	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいけばと感じる。	教育委員会
	食育や地産地消といった分野においては、学校関係のみならず、さまざまな組織と連携のうえ進めていきます。			食生活改善推進委員との郷土食料理体験を通じた活動	—	B	小中学校の給食に「地産地消」で地元の野菜の提供を受けているのか。積極的な推進を。	教育委員会
	小・中学校のICT環境を整備するとともに、適正な情報モラルを身につける教育とICT機器を使ったプログラミング教育や授業への活用を推進します。			情報モラル研修会の継続実施	—	B	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいけばと感じる。	教育委員会
	小・中学校の老朽化に対応するため、児童・生徒の安全という観点のみだけでなく、学校が地域の防災拠点となる施設であることも視野に入れ、計画を立て、修繕を順次実施していきます。			特定建築物調査の指摘事項の計画的な修繕実施	—	B	小中老朽化の対応を。中学はだいぶ年数がたち老朽化が進んでいるのではないかと、小中の統合についても検討を。	教育委員会

一人ひとりが生きがいをもって暮らせる基盤づくり(児童福祉・少子化対策)	安心して子育てが行えるよう、相談支援の充実や経済的支援も含めた支援制度の導入と保育料のあり方について研究を進めます。			以上児の保育の無償化を実施の継続している。 未満児から、必要がある場合は受け入れ可能な体制を整えている。	—	A	保育料も然りで小中学校の給食費や学年費への経済支援は現状はどうか、今後の見通しは。 滞納や延滞がある場合はや経済困難家庭は児童手当からの差引や援助体制はできているのか。	教育委員会
	県や近隣市町村と連携し、住民のニーズに対応した保育サービスを拡充します。特に病児・病後児保育については、速やかに対応していかななくてはならない課題です。 広域単位や近隣町村との連携も視野に入れた受け入れ体制について実現可能な体制を整えていきます。			病児・病後については、実際の運営は難しいため対応予定は現在していない。 広域保育等は、希望や該当者がいる場合は対応している。	—	B	引き続き取り組んでいくべきと感じる。	教育委員会
	児童虐待などについては、地域内で通報等の啓発を行うとともにさらに県と連携し強化に努めていきます。			木祖村要保護児童対策地域協議会により実務者会議及び代表者会議を定期開催し、必要に応じて個別ケース会議を実施し情報の共有と連携図っており、民生児童委員等との連携やポスター掲示等地域内での通報等の啓発を図っている。	—	A	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいくべきと感じる。	教育委員会

	「木祖村子ども子育て支援事業計画」に沿った事業を展開します。			0歳児からの一時保育の実施、長期休暇中の児童クラブ実施	—	A	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいべきと感じる。	教育委員会
	増加傾向にある発達特性のある児童・生徒やその保護者に対し、生まれてから学齢期を終えるまで、各ライフステージに沿って縦に支援する体制を整え、必要に応じて福祉施策までつなげることを重点施策とします。			木祖村子育て包括支援センターを令和2年4月に立ち上げ、妊娠・出産・生まれてから18歳までを切れ目なく支援する体制を確保した。各ライフステージに応じ、児童・生徒・保護者の困り感に応じた支援ができる体制を整え、教育委員会と協力し、必要に応じて福祉と連携できる支援を行い、きめ細かに寄り添う行政を実践している。	—	A	引き続き取り組んでいべきと感じる。生まれてから18歳までの支援する体制や施策の流れの一覧表作成を	教育委員会
	家庭のニーズに対応した学童サービスについて検討し、安心して子どもを預けられる体制の整備を図ります。			教育支援アドバイザーを配置し、児童クラブにおいても教育支援や子どもや保護者への接し方について研修を実施した。	—	A	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいべきと感じる。 村営公的塾の運営は考えているのか。	教育委員会
	各種サークル活動や講座に携わる人材の掘り起こしと育成を図ります。			R3年度新規登録サークル数1、陶芸教室は講師の高齢化により、次年度以降に向けて後継者となる先生に補助に入っていた。入っていた。	—	B	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいべきと感じる。	教育委員会
	老若男女誰もが目標や生きがいを持って、いつまでも元気に暮らせる生涯学習の場をつくるとともに参加しやすい講座について検討します。			多世代交流と物づくり・体験型講座をベースに、すすく倶楽部共催による農業体験講座や新たな取り組みとして大人のスキー教室を開催した。	—	A	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいべきと感じる。	教育委員会

一人ひとりが生きがいをもって暮らせる基盤づくり(社会教育)	小・中学校図書館と源流図書館について、一元管理できるような仕組みづくりや他地域の図書館との連携を検討し読書環境の整備に努めます。			学校図書館と地域図書館の連携は取れているが、地域図書館の利用率の地域差は是正されないままである。	—	B	村民の図書館利用者が増加するための施策をお願いしたい。	教育委員会
	子ども読書推進計画により読書に親しむ機会の提供と家庭、地域、学校を通じた社会全体での取り組みを推進します。			乳幼児期のブックスタート、学校での読み聞かせなど、子どもが本に触れる機会を設けた。	—	A	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいくべきと感じる。	教育委員会
	家庭教育の充実と社会全体での地域づくりを図るため、信州型(木祖村型)コミュニティスクールを活用した地域と学校の連携事業を進めます。			もいちど小中学校での授業見学やコーディネーターによる地域探検授業への協力など、地域と学校それぞれが歩み寄るような事業を展開した。	—	A	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいくべきと感じる。	教育委員会
	行政、学校、公民館、地域、その他団体との連携、協力体制の強化を図ります。			R3年度は木曽文化公園との共催事業を実施した。	—	B	引き続き取り組んでいくべきと感じる。	教育委員会
一人ひとりが生きがいをもって暮らせる基盤づくり(社会体育) 総合計画より転記	スポーツ振興の中核となる指導者やスポーツ推進委員養成のため、研修会への参加などの機会を増やします。			スポーツ推進委員の定数5名を令和3年度に定数10名以内とし年度末現在9名により活動している。総合型SC立上げに向け研修会など行っている。	—	B	総合型SCの組織の立ち上げを積極的に進めて欲しい 高齢者への健康づくりの推進を	教育委員会
	村民のニーズにあったスポーツ教室や手軽にスポーツができる環境づくりを進めるとともに、健康づくりと生きがいづくりを目的とした参加しやすいプログラムの充実について、関係機関と連携を図り推進します。			教室開催数の増加など村民の声を反映させての開催ができた。 男性の教室参加の課題となっている。	—	C	効果は十分ではない部分があるが、施策の内容や方向性は良いと思うため引き続き取組を実施してほしい。	教育委員会

(4) 多世代交流による子育て支援								
「大人の学校」の計画、組織の立ち上げ	大人が気軽に学校へ行ける「大人の学校」の計画と開催	0回	年間20回	もう一度小中学校の開催 年20回	23人	A	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいべきと感じる。	教育委員会
地域の大人による放課後支援の拡大と地域の方が先生となる総合学習機会の増加	安全で木祖村らしいメニューの研究と教えてくれる人材の発掘と体制の整備	0人	協力者10人	すくすく大学の企画、準備(令和4年度より実施)	0	B	村内に講師になっていただける人材を発掘し子どもから大人まで内容がわかるような機会を作してほしい	教育委員会
一人ひとりが生きがいをもって暮らせる基盤づくり(学校教育)	信州型(木祖村型)コミュニティスクールを中心とした学校支援ボランティア活動を積極的に進め、地域に開かれた特色ある学校づくりを学校と地域が一体となって取り組めるようにします。			陶芸教室や地域探検事業の開催	—	B	十分な効果を得られるため、引き続き取り組んでいべきと感じる。	教育委員会
	児童・生徒が地域の方々との交流をとおして木祖村の歴史や伝統などを学ぶとともに、平和教育、福祉体験、自然とのふれあいなどを通じて命の大切さを学ぶことができる機会をつくります。			コミュニティスクールでの地域探検に実施	—	B	村内の歴史や伝統等子ども達に継承していくのも大人の役目 資料館利用やモノづくり農業体験等、地元を離れるかもしれない環境の中もっと育った村のことを知るべきだと思う。 地域コミュニティづくりや地方分権、地方の活力ある場所は明確なニーズ、キーワードは「埋もれた人材発掘×感性」	教育委員会